コロナ関連補正予算通過
力を合わせて、この冬を乗り切ろう!

かすみがうら市議会議員
みやじま謙活動報告

つばさ通信

第24号

かすみがうら市議会第四回定例会は、５億６０００万円余りの一般会計補正予算などを審議・可決して、12月15日に閉会しました。やはり注目すべきは、国の第二次補正予算のバックアップ等により行われるコロナ対策関連施策です。

冬本番を迎えて感染者が全国的に急増する中、かすみがうら市も一時、県から感染拡大自治体に指定されました（12月14日解除）。この目に見えない敵との戦いに、私たちは決して負けるわけにはいきません。

心で繋がる活動もお願いします

プレミアム商品券第二弾も

今回の一般会計補正予算には、コロナ対策関連の施策が盛り込まれています。そのひとつは「新生児特別定額給付金事業」です。

これは、今夏に行われた一人10万円の特別定額給付金の対象にならなかった新生児（令和２年４月28日～令和３年４月１日生まれ）を対象に、同じく一人10万円を支給するというもの。国の施策から漏れた対象者への支援となります。

また保育士さんや放課後児童クラブの支援員さんを対象に一人３万円を支給する「感染症対策従事者慰労金」が盛り込まれました。

さらには、65歳以上の高齢者や基礎疾患のある市民の方に対し、ＰＣＲ検査の補助が行われます。検査代１万６５００円のうち、個人負担は３０００円です。申し込み方法など詳しくは、市のホームページで確認できます。また、１月発行の広報誌にも掲載予定とのことです。なお、ＰＣＲ陽性者の濃厚接触者や発熱などの症状のある方は、保健所での対応となりますので、対象外です。

さらに、ひとり親世帯特別給付金の再支給も行われます。支給額は１世帯当たり５万円、第２子以降１人につき３万円で、12月25日に前回分と同じ銀行口座へ振り込まれますので、ご確認ください。

そして今回の補正予算額の半分以上をかけて行われるのが「かすみエールプレミアム商品券」第二弾で、約３億３０００万円が投じられます。

内容は第１弾と同様で、額面１万円分の商品券を５０００円で購入でき（１世帯２冊まで）、使用期限は令和３年３月14日です。１月に購入引換券が郵送されます。なお、第一弾の商品券の使用期限も来年３月14日まで延長されました。

心のつながりを確認し合う

世界中で感染が拡大する新型コロナですが、日本でワクチンの本格接種が始まるのは来春以降と言われています。

つまり、蔓延期のこの冬をどう乗り切るか、まさに正念場です。

市民の皆様には、これまでにも増して衛生管理をお願いします。外出は最小限にし、テイクアウトやデリバリーなども積極的に活用してください。

もう一つ、どうしてもお願いしたいことがあります。それは、離れて暮らすご家族や知人、友人、ご近所などへの電話などを使った「声かけ」です。

自殺者が急増しているとの報道が頻繁になされるようになりました。やはりコロナによる直接・間接の影響があると言われています。

感染予防のために人との接触を避けざるを得ない今だからこそ、心の繋がりを確認し合う努力が必要だと思うのです。

「元気？」「どうしてる？」「困ってない？」・・・その一言で救われる命があるはずです。

フードバンク活動にご協力お願いします！

フードバンクとは、賞味期限内で安全に食べられるにも関わらず包装ミスや返品などで廃棄される食品や、ご家庭で余っている食品を集め、困っている人へ無償で届ける活動です。だれでもできる「食の助け合い」にぜひご協力ください。

【寄付していただきたい食品】

２か月以上の賞味期限があり、常温保存できる未開封の食品
（缶詰、レトルト食品、乾麺、インスタント食品、お米、お菓子など）
※新規購入品も大歓迎です。

【受付場所】

霞ヶ浦地区：あじさい館入口
千代田地区：千代田ショッピングモール農協そば前
※いずれも営業時間内

みやじま謙はNPO法人フードバンク茨城の会員です

増え続ける市民要望にどう応えるか
行政の「見える化」で不公平感解消を

増える行政への要望

道路や側溝の破損補修や空き地の草木の繁茂、通学路の危険除去など、毎年、各地域から行政へ要望が出されます。また今後も、道路や上下水道を始めとした生活基盤の老朽化が進行しますので、行政への要望は増え続けることが予想されます。市ではその都度対応しているわけですが、「何度も要望書を出しているがやってくれない」「こちらの地域は後回しにされている」「何年待っても対応してもらえない」など、不満の声が聞こえるのも事実です。

基本は、行政の無駄を削減して必要な所にお金を使えるようにすることですが、それを前提として、出される要望がどのようにランク付けされ、処理されているのか、その過程を透明化して、不公平感を払拭することも必要です。いわゆる「見える化」です。

公平な基準でランク付け

見える化には、①データベース化、②公平な評価、③公開のステップが必要になります。各行政区から出された要望はデータベース化され、公平な基準によってランク付けされた後、庁舎内で情報共有され、毎年更新される必要があります。そして、どこからどんな要望が出され、どう処理されたか、市民がいつでも確認することができれば、不公平感は解消されます。何度も同じ要望を出す必要もなくなります。

千葉県松戸市では、要望への対応状況を地図に落とし込んで公開しています。かすみがうら市でも、ぜひ取り組みたい施策です。

どうなる乗合タクシー
4月からの方針、未だ示されず

令和2年3月での廃止が発表されていたデマンド型乗合タクシーは、市民からの強い存続要求もあって、廃止時期が一年延期されています。市ではこの1年を使って、デマンド型乗合タクシーを存続させる選択肢を含めて、市内の新しい公共交通のあり方を検討している状況です。

私は今定例会の一般質問で、交通弱者の外出支援策としてデマンド型乗合タクシーは存続させ、さらに使い勝手の良い制度へ改善していくべきとの立場から、来年4月からの方向性を質しました。

答弁では「課題解消のために最終調整を行っている」と、具体的な内容は発表されませんでした。また、現在の委託先とも、新年度についての調整は行っていないとのことでしたが、来年4月からスタートに間に合うのでしょうか。

検討過程が見えないまま、時間はどんどん過ぎていきます。私はさらに1年をかけて市民を交えた検討を重ねて、より良い制度設計をすべきと提言しました。

明日への思い

コロナ禍が収まりません。ワクチン接種の見通しが立たない現在では、蔓延防止策の本丸はPCR検査の徹底拡充以外にないと言われながら、国はなぜか動きません。

せめて自治体独自で対策をと考えますが、本紙表面で掲載した通り、今回の補正予算でのPCR補助は、65歳以上か基礎疾患のある方の希望者に限定されています。

私は、補正予算5億6000万円の内で3億円以上を占める第二弾プレミアム商品券を、PCR検査の費用に使えるよう要望しましたが、回答は「検討する」に留まっています。

感染拡大防止と経済維持を両立させるには、感染者の特定・隔離以外にありません。自治体の本気度が試されています。

TOPICS

広域連携でイノシシ処理場を

前号でもお伝えしたイノシシによる被害の急増問題。お隣の石岡市や土浦市でも被害拡大に苦慮しています。

イノシシには自治体の境界線はありませんから、各自治体単独よりも、広域行政で対応すべき問題です。

イノシシの駆除で大きな問題となっているのが、猟友会の高齢化です。ワナの仕掛け、捕獲、仕留め処理、解体、搬送と、その作業は重労働かつ危険がいっぱいで、年々、肉体的な負担が増しています。せめて解体作業だけでもなるのですが、友会の負担を軽減し、ジビエなどの活成獣は解体しなければゴミ処理場が受け入れない仕組みになっています。

私は、来年3月で共用が終了する新治環境クリーンセンター跡地に、石岡市や土浦市との広域連携でイノシシの処理場の建設を検討すべきではと考えます。センターが解体処理を担って猟用へと展開していくのです。

新治環境クリーンセンター

千代田と出島は鳥の両翼
心合わせて羽ばたこう！

みやじま謙の「創ろう！かすみがうら市新時代」
ブログ大好評配信中！